

## 感染症定期報告感染症別文献一覧表

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	B型肝炎	Journal of Viral Hepatitis 2010; 17; 162-170	グリーンランド西海岸において、B型肝炎(HBV)が高頻度に流行している集落の子供におけるD型肝炎(HDV)アウトブレイクの調査が行われた。グリーンランドでは、全人口の5-10%がHBVキャリアであるにもかかわらず、急性/慢性肝炎、更には、肝硬変/肝臓の患者数は決して多くなく、これまでHBワクチン接種は行われてこなかった。しかし、本調査により、HBVキャリア率が高い地方においてHBVキャリアの子供へのHDV感染アウトブレイクが起きたことが明らかとなった。HDV重感染は、肝硬変発症、肝臓発症、劇症肝炎発症頻度を高めることが知られており、今後はグリーンランドにおいて子供へのHBワクチン接種を強く推奨している。
2	E型肝炎	Emerging Infectious Diseases 2009;15(5); 704-9	E型肝炎ウイルス(HEV)のgenotype3は日本においては不顕性感染とされているが、重篤な肝炎を発症した国内8症例について、強毒性をもたらすHEVの遺伝的特徴を解析するため遺伝子配列を決定した。系統樹解析の結果、いずれも他のgenotype3とは区別され、JIO株と名付けられた固有のクラスターに分類された。このJIO関連ウイルスは他のHEVgenotype3とは異なる18のアミノ酸をコードしており、また、JIOクラスターのヒトHEV株のほぼすべてに共通する置換はヘリカーゼ領域(V239A)に位置し、V239Aはgenotype4では一般的であることから、毒性の増強と関連が示唆された。また、genotype3に属するswJ19株に感染した5匹のブタから遺伝子を解析した結果、同様にヘリカーゼにV239A置換が存在していたことから、JIO関連ウイルスが人獣共通であることが疑われた。
3	E型肝炎	農林水産省農林水産技術会議事務局研究成果 2009; 469; 86-90 (2009 March 11)	E型肝炎ウイルス(HEV)の家畜における動態解明と伝播防止技術の開発を目的とし調査および実験を行った結果、日本のブタ集団においてHEVは高率に浸潤していることが明らかとなり、その主要な感染時期を特定した。また、ノトバイオートブタを用いたHEVの実験感染系を構築し、HEV VLP(ウイルス様粒子)の経口投与ならびに経鼻投与によりHEV感染を防御できる可能性が明らかとなった。
4	E型肝炎	Liver international 29(8); 1230-40; 2009 September	中国Guangxi Zhuang自治区から採取した糞試料より分離したHEVウイルス株swGX40の完全遺伝子を決定し、系統発生の学的解析を行った結果、swGX40株の全長遺伝子配列は既知のHEV 1,2および3型と73.4-76.5%の相同性があり、HEV4型と83.1-91.2%一致した。3箇所あるORF(open reading frames)の一つORF2の部分遺伝子配列(249塩基)は、swGX40が中国人由来(LZ-105)およびベトナム人由来(HE-JVN-1)と各々94および97%の相同性であることを示した。swGX40はヒト分離株LZ-105と相同性が高く、二者はGuangxi Zhuang自治区の同じ区域Liuzhouから試料採取されており、本結果よりE型肝炎の人畜共通感染が強く支持された。
5	E型肝炎	Journal of Clinical Virology 2010; 47; 89-92	ドイツ南西部における国内急性E型肝炎感染の散发例(2年間で男性3例)は急性肝炎、黄疸および肝機能検査値の上昇を伴い、抗HEV抗体が肝生検(2例)もしくは血清中(1例)において陽性であり、HEV RNAは2例では血清中、1例は検便において検出された。いずれもドイツ国外への渡航歴はなく、また、動物との接触も否定された。2例につきHEV遺伝子解析を行った結果、他の欧州からおよびブタからの分離株と相同性のあるgenotype3型であった。感染源は不明である。原因不明の肝炎および急性肝炎の患者における鑑別診断にはE型肝炎を考慮に入れ、HEV検査を実施すべきである。
6	インフルエンザ	Journal of Virology 83(9); 4287-4296; 2009 May	ヒト1918パンデミックインフルエンザウイルスを子ブタに感染させた実験の報告である。4週齢の子ブタに1930/rec(A/swine/Iowa/15/1930 H1N1: 対照として)もしくは1918/rec(human 1918 pandemic H1N1)ウイルスのどちらかを気管内に、もしくは1918/recウイルスを鼻腔内に接種した結果、一過性の発熱および弱い呼吸障害がすべての群で認められた。1918/recウイルスが感染した他の哺乳宿主は致命的であったが、ブタは呼吸困難や瀕死に至らなかった。また、感染後3および5日では下気道のウイルスカ価は1930/recもしくは1918/recウイルスでは同程度であり、感染後7日では肺損傷は1918/recウイルス感染動物にのみ認められた。本結果より、1918パンデミックインフルエンザウイルスはブタに感染・増殖し、呼吸障害の原因となり、このウイルスが1918パンデミックの期間ブタ集団に感染し、その結果、現在の系統である古典的H1N1ブタインフルエンザウイルスに繋がったとの仮説が支持された。
7	インフルエンザ	Veterinary Microbiology 137 51-19; 2009	2007年8月、米国オハイオで行われたカウンティフェアでヒトおよびブタにインフルエンザ様症状が認められ、特定されたインフルエンザウイルス(OH07)は、米国のブタ集団に流行しているブタウイルスと類似したブタH1N1と特徴付けられた。OH07についての感染実験および感染性の調査の結果、OH07はブタにおいて病原性を示し、ブタ間で伝染し、多くのブタH1抗血清とは交差反応性を示さなかった。感染ブタとの接触後、早くて3日、長くても7日間、感染ブタはウイルスを排泄したことから、当該カウンティフェアでブタと接触することでヒトに感染した可能性がある。しかし、同じ遺伝子系統にある現代のブタウイルスと比較して、アミノ酸の変化に繋がる多くの塩基変化がHA遺伝子上およびゲノム全体に認められた。アミノ酸の変化がウイルスのヒトへの感染力と関係しているかは不明である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
8	インフルエンザ	インフルエンザ 10(2); 152-160; 2009 April 1	1976年米国のブタインフルエンザ騒動について、ハーバードの行政学者らが行った意志決定の過程の詳細と、その解析をおこなったレポートの第1回目である。
9	インフルエンザ	臨床獣医 27(6); 62-62; 2009 Jun	米国カウンティフェアでの発生例から分離されたブタインフルエンザウイルス(A/SW/OH/511445/2007株)の感染実験と伝染性を調べる目的で、4週齢のブタ20頭の気管内にウイルスを投与したウイルス投与群、10頭を「接触ブタ」として投与2日目から同居させた接触ブタ群および9頭のコントロール群を用意した。ウイルス投与および接触ブタ群では、鼻腔内スワブサンプルからのウイルス分離は投与後3および5日では85%-100%となり、7日後には陰性であった。両群とも曝露後14日までに全頭の抗体が陽転し、また、基準となるH1免疫血清に対して交差反応性を示さないことから、今回のウイルスに対して、ブタ群は免疫を持たない可能性が示された。
10	インフルエンザ	鶏の研究 84(7); 36-39 2009 July 1	ブタインフルエンザウイルス(H1N1亜型)に起因する新型インフルエンザの発生と流行についての報告である。今回出現したウイルスは、古典的なブタインフルエンザウイルスの遺伝子とヒトおよびトリインフルエンザウイルス遺伝子の遺伝子再集合体である。ヒトへの病原性は強くないが、疾患のあるヒトが感染した場合の重症化やウイルスの広範囲への広がりが懸念される。また、アジア地域での強毒のH5N1亜型トリインフルエンザと今回の新型インフルエンザウイルスによる「新型インフルエンザウイルス」がブタの体内で作る可能性が危惧される。
11	インフルエンザ	OIE 2009 July 31	オーストラリアにおけるA/H1インフルエンザ:発生日 2009年7月24日、最初の確定日 2009年7月31日、報告日 2009年7月31日、原因 インフルエンザA H1サブタイプ。2009年7月24日にNew South Wales地方New South Wales中西部でインフルエンザA H1サブタイプのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ1950頭、発生頭数ブタ100頭、死亡例0頭であった。
12	インフルエンザ	読売新聞 2009 April 29	インドネシアのブタが高い確率で高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1型)を持っていることが、神戸大感染症センターの調査で分かった。H5N1型は、アジアを中心にトリからヒトへ感染が相次ぎ、250人以上が死亡しているウイルスである。同大学は、インドネシアの4州で402頭のブタを調査し、1割を超える52頭からH5N1型を検出し、うち1頭からはヒトへの感染力を一部獲得したタイプが見つかった。
13	インフルエンザ	ProMED-mail 20090808.2812	2009年7月末、カンザス州ライリー郡在住の子供が一般的にはヒトに感染しないブタインフルエンザH3N2ウイルスに感染した。この子供はブタとの直接の接触があった。H3N2ウイルスは北アメリカのブタ間で一般的に流行しており、4月中旬に米国で初めて検出されたブタ由来pandemic H1N1ウイルスとは異なる。KDHE (Kansas Department of Health and Environment) の保健部長は、H3N2ウイルスはpandemic H1N1ウイルスとは関係していない事、およびpandemic H1N1ウイルスの変異や組換えによるウイルスではなく、現時点では、ヒトの健康に脅威を及ぼしてはいないと報告した。子供はインフルエンザ様症状を呈したが、完全に回復し、家族からの病気の報告はなかった。
14	インフルエンザ	OIE 2009 December 17	中国におけるインフルエンザAウイルス:発生日 2009年10月28日、最初の確定日 2009年11月19日、報告日 2009年12月11日、原因 インフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年11月25日にBEIJINGでイヌ52匹に感染の疑いがあり、10月28日にはHEILONGJIANGでブタ60頭に感染の疑い、確定例は4頭であった。
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20091224.0070	2009年12月23日、中国CHP (Center for Health Protection) は、軽症のトリインフルエンザであるインフルエンザA(H9N2)に感染した35ヵ月齢女児の症例を報告した。香港Sha Tin在住のこの女児は、11月下旬に咳・発熱・鼻汁などの症状を発症し入院したが、12月11日に退院し、現在は回復している。患者の呼吸器検体からインフルエンザA(H9N2)が検出され、WHOに報告された。
16	インフルエンザ	ProMED-mail 20100102.0040	2009年12月10日、中国の養豚場で(11月26日に)採取されたブタ鼻腔スワブ検体がヒトブタインフルエンザ(パンデミックインフルエンザA H1N1)に陽性を示したことが報告された。飼育されている約1200頭のブタはすべて健康であり、所有者および作業員にインフルエンザの症状はない。当該養豚場のブタについて更に検査を行っているが、これまでのところ陰性であり、調査は継続される。また、現地の全養豚場についてもこれまでのところ陰性である。
17	インフルエンザ	ProMED-mail 20100116.0189	米国CDC(Centers for Disease Control and Prevention)は2010年1月15日に、新しいブタインフルエンザによるヒト感染例を報告した。アイオワ州の小児は2009年9月にブタインフルエンザウイルスH3N2に感染したが、11月まで表面化しなかった。少年は入院も必要とせず、十分に回復した。本例ではウイルスの広がりはなく、また、ヒト-ヒト間の感染を疑う根拠はなかった。当該少年が感染した経緯は不明であり、ブタとの接触は知られていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
18	インフルエンザ	Veterinary Microbiology 138 (3-4); 361-367; 2009 September	2006年イタリアで(欧州では初めて)ブタから新規H3N1ブタインフルエンザウイルスが分離され、感染させたブタの肺からウイルスをクローニングし、ユニークなHとNの組み合わせを確認した。また、遺伝学および系統発生学的解析の結果、H3N1株の完全なNA遺伝子はイタリアで分離された3つのH3N2株と高確率で遺伝子が一致し、全長HA配列は2004年にイタリアで分離された3つのH1N1型ウイルスと相同性が高かった。他の遺伝子については、イタリアで流行しているH1N1およびH3N2ブタインフルエンザウイルスで検出された各々の遺伝子と関連していた。本結果より、新規ブタインフルエンザウイルスはイタリアで流行しているH1N1およびH3N2におけるreassortantである可能性が示唆された。
19	インフルエンザ	OIE 2009 November 3	米国におけるA/H1N1インフルエンザ: 発生日 2009年10月22日、最初の確定日 2009年11月1日、報告日 2009年11月3日、原因 2009パンデミックA/H1N1インフルエンザウイルス。2009年10月22日にIndiana州で2009パンデミックA/H1N1インフルエンザウイルスのアウトブレイクが発生した。ブタ3000頭に感染の疑いがあったが、現在は回復した。
20	新型インフルエンザ (H1N1)	WHO Pandemic (H1N1) 2009 - update 63	WHOによるパンデミック(H1N1)2009状況の週報告であり、世界の各地域の感染状況が更新された。パンデミック(H1N1)2009の初めての症例が報告された国はカメルーン、マダガスカルおよびモザンビークであり、また、世界6地域における2009年8月23日現在の累積症例数および死亡数も報告され、総数はそれぞれ209,438症例(以上)および(少なくとも)2,185例であった。
21	新型インフルエンザ (H1N1)	Cleveland Clinic Journal of Medicine 76(6); 337-343; 2009 Jun	ブタ由来インフルエンザA(H1N1)ウイルスは2008-2009年季節性インフルエンザが終焉する時に北アメリカで発生し、世界的に広がった。世界は起こるであろうパンデミックに動かされており、本論では診断、治療および予防について要約している。
22	新型インフルエンザ (H1N1)	Nature 459 doi:10.1038/nature08182 2009 June 25	新型ブタ由来インフルエンザA(H1N1)ウイルス(S-OIV)の起源と流行拡大初期のタイムスケールを推測するため、進化的解析を行った結果、このウイルスはブタ間で流行していた数種のウイルスから成り、ヒトへの最初の伝播はアウトブレイクの数ヶ月前であったことが示された。遺伝的サーベイランスにおいてギャップを系統発生学的に推定すると、S-OIVアウトブレイクの前に祖先の試料を採取しなかった長い期間があることが示され、ヒト感染の数年前にブタ系統の再集合が起きた可能性およびS-OIVの複数の遺伝的祖先は人為的な起源ではないことを示唆している。流行の試料が採取されていない歴史は、遺伝的に最も近系なブタウイルスの発生と所在が流行の直近の起源に関してほとんど明らかでない事を意味する。本結果は、ブタにおける組織的なインフルエンザサーベイランスの必要性を強調し、また、ブタでの新しい遺伝的要素の混合は、結果的にヒトでパンデミックを起こすウイルスが出現するという証拠を提供している。
23	新型インフルエンザ (H1N1)	Nature 460 doi:10.1038/nature08260 2009 August 20	新型ブタ由来インフルエンザA(H1N1)ウイルス(S-OIV)の病原性に関するより良い評価を行うため、米国で最初に分離されたS-OIVの一つA/California/04/09 (CA04)について、他のS-OIV単離株と同様に特徴を調べた。マウスとフェレットでは、CA04および他のS-OIV単離株は現在流行しているヒトH1N1ウイルスより効率良く複製され、更に、CA04は霊長類(ヒト以外)で効率よく複製されるため、感染マウス、フェレット、霊長類(ヒト以外)には、現在流行しているヒトH1N1ウイルスより肺に重篤な損傷を引き起こし、フェレット間では感染が起きている。SPFミニブタでは臨床症状無しにCA04は複製する。異なる年齢層からのヒト血清を評価した結果、1918年に流行したウイルスと抗原的に密接に関連したヒトH1N1ウイルスの感染がCA04に対する中和抗体活性を付与していることを示唆している。また、CA04は承認済みおよび開発中の抗ウイルス薬に感受性がある。
24	新型インフルエンザ (H1N1)	CMAJ 181(3-4); 159-163; 2009 August 4	カナダにおける新型インフルエンザウイルスの最初のヒト-ヒト集団感染の報告症例について疫学および臨床上的特徴の報告である。本研究より、季節性ワクチンは新型ウイルスに対する交差反応抗体を産生せず、また、新型ウイルスはヒトからヒトへ容易に感染することが示唆された。新型インフルエンザの殆どの症例は季節性インフルエンザと同様に、比較的穏やかで自然治癒の疾患であった。
25	新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 May 5	カナダにおけるA/H1N1インフルエンザ: 発生日 2009年4月21日、最初の確定日 2009年5月1日、報告日 2009年5月2日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年4月21日にALBERTA Clearwater州でA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。ブタ3013頭に感染の疑いがあり、確定例はブタ450頭、死亡例0頭であった。
26	新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 July 9	アルゼンチンにおけるA/H1N1インフルエンザ: 発生日 2009年6月15日、最初の確定日 2009年6月24日、報告日 2009年7月8日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年6月29日にBUENOS AIRES Canuelas CanuelasでA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。ブタ6104頭に感染の疑いがあり、確定例はブタ1632頭、死亡例0頭であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
27	新型インフルエンザ (H1N1)	OIE WAHID Interface (2009 May 2)	CFIA(Canadian Food Inspection Agency)は2009年4月29日に農場のブタから試料を採取し、検査を依頼した結果、得られたシーケンスからウイルスは新型A/H1N1インフルエンザウイルスであり、ヒト型と高い相関性のある事が確認された。この農場に雇われた大工は4月19日にメキシコから渡航後、インフルエンザ様症状を示しており、農場主およびその家族も同様の症状であった。ヒトの調査については、公衆衛生局が調査中である。
28	新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090723.2603	カナダCFIAの検査員2名が、2009年4月下旬にAlbertaのブタにおけるインフルエンザアウトブレイクについて調査中にブタインフルエンザA/H1N1に感染したことが発覚した。ブタから新型H1N1ウイルスに感染したヒトの最初の症例である。
29	新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20091019.3592	2009年夏の米国ミネソタ州フェアで3匹のブタにH1N1陽性反応が示され、確定診断がなされれば米国の動物で初めて検出されたことになる。ウイルスが異種動物間で感染することにより、毒性の強い変異が懸念されるが、ミネソタ州当局はウイルスに変化が起きた証拠は提示されていないと報告した。
30	新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20091020.3600	パンデミックH1N1インフルエンザウイルスが米国内のブタで初めて確認されたとUSDA (U.S. of Agriculture Department)は発表し、また、食用ブタが感染しても屠殺はせず、ブタ肉製品からこのインフルエンザに罹ることはなく、食べても安全であると報告した。感染が確認されたブタはミネソタ州フェアに出品されており、このフェアに参加した4例の10代若者がH1N1ウイルス陽性と診断された。USDAは、現時点で収集した情報によると、この若者はフェアのブタに接触したことで罹患したのではないと報告した。
31	新型インフルエンザ (H1N1)	WHO 2009 July 1, 3, 6, 27 August 4, 12, 21, 28 September 4, 11, 18, 25 October 2, 9, 16, 23, 30 November 6, 13, 20, 27 December 4, 11, 18, 23, 30	国際保健規則(2005)に批准している加盟国によって、WHOに報告がなされたパンデミック(H1N1) 2009の確定症例数の報告がなされた。国別に、累積の症例数・死亡数および前回の報告以降新たに確認された症例数・死亡数が報告された。
32	トリインフルエンザ	Vaccine: 2009; 27; 16 ; 2258-2264 (2009 April 6)	ブタにおいて、高病原性であるH5N1トリインフルエンザ(AIV)のヘマグルチニンを発現しているpoxベクターワクチンの安全性、免疫原性および有効性を調査した。ブタは4週毎に2回、鶏痘(TROVAC)、カナリア痘(ALVAC)もしくは牛痘(NYVAC)を接種され、2回目投与の6週後、低病原性H5N2 AIV Aを気管内曝露された。24もしくは72時間後、ブタの気管および4肺葉におけるH5N2ウイルス複製を比較した結果、ワクチンは全動物に認容性があり、抗体価は2回目接種後2週間でピークとなり、ヘテロなH5ウイルスより2-4倍高値であった。NYVACおよびALVAC(アジュバントワクチン)はTROVACもしくはNYVAC(アジュバントなし)より高い抗体価を示した。H5N2チャレンジウイルスはワクチン非接種の全ブタから分離され、一方、接種された21匹中19匹は感染から保護されたことから、ヘテロなH5 AIV曝露に対するpoxベクターワクチンの安全性、免疫原性および有効性が示された。ブタに適応したH5ウイルスに対する防御については検討の余地がある。
33	エボラ出血熱	CCDR Weekly 2009 July 17	2008年5月にフィリピンでブタからエボラレストン株が検出された。この株の研究者は、この株はヒトでの発病にはつながらないが、ヒトの食物連鎖における危険性を懸念している。ブタ群は、レストン株がヒトで発病する型へと変異するのに都合のよい宿主である可能性があり、また、ヒトに害を及ぼす他のエボラ株の宿主にもなる可能性が懸念されている。
34	口蹄疫	OIE 2009 May 15	中国における口蹄疫:発生日 2009年4月28日、最初の確定日 2009年5月14日、報告日 2009年5月15日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2009年4月28日にGUANGXI省 Guilin地区 Lingchuanで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ウシ40頭およびブタ60頭に感染の疑いがあり、確定例はウシ1頭、死亡例0頭であった。
35	口蹄疫	OIE 2009 May 25	台湾における口蹄疫:発生日 2009年5月25日、最初の確定日 2009年5月20日、報告日 2009年5月23日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2009年5月18日にP'ING-TUNG Yanou townshipで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタ13176頭に感染の疑いがあり、確定例ブタ280頭、死亡例0頭であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
36	口蹄疫	OIE 2009 August 4	コロンビアにおける口蹄疫:発生日 2009年8月4日、最初の確定日 2009年8月4日、報告日 2009年8月4日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2009年7月29日にNARINO Ipiales ElCharcoで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ウシ22頭およびブタ9頭に感染の疑いがあり、確定例はブタ9頭、死亡例0頭であった。
37	ウイルス感染(PCV-2)	ProMED-mail 20091004.3453	スイスではブタサーコウイルス(circovirus)感染が増加しており、2003年の感染ブタ3例から2006年には133例となった。仔ブタに感染することが多く、感染した殆どの動物は生き残るが、発育が悪く、下痢や咳を伴い衰弱する。感染は主に動物との直接感染により起こり、空気感染の可能性もあるが、全例ではなく発病しないブタも共存するのは不明である。このウイルスは重篤な症状である皮下内出血を引き起こすこともあり、感染した動物の最大80%まで死に致る。この新興ではない病原菌は、何度も変異を繰り返し、無害から致死性へと変換したウイルスが検出されている。数年前からワクチン接種が可能であり危機は回避されているが、このウイルスは変異を起こしやすく、実際に畜牛で検出されている。
38	ウイルス感染(PCV-2)	27th Meeting of the European Society of Veterinary Pathology and European College of Veterinary Pathologists, KRAKOW; 09-12; 118; 2009 September	ドイツの42農場から52頭の仔牛に顕著な点状出血および粘膜表面の出血が起きた。検査の結果、顕著な血小板減少、白血球減少および顆粒球減少、骨髓形成不全が認められた。広域スペクトルPCRの結果、感染した仔牛の数頭からブタサーコウイルス2b型と高い相同性のあるサーコウイルスが検出された。
39	ウイルス感染(パルボウイルス・PCV-2)	Virus Research doi:10.1016/j.virusres. 2009.09.006	PMWS (postweaning multisystemic wasting syndrome)が確認されたスウェーデン産ブタから収集したリンパ節に、感染因子を含んでいるPCV-2(ブタサーコウイルス)とは異なる未知のDNAが存在するか、ランダム増幅およびハイスループットシーケンシングを用いて検討した。増幅された遺伝子配列の大部分はPCV-2を示したが、TTV (Torque Teno virus)および新規パルボウイルスの遺伝子配列も検出した。TTVはブタに高頻度で検出されているため、PCV-2同様TTVの検出は予測されたが、パルボウイルス遺伝子をより伸長した領域まで増幅する事に成功し、遺伝子配列比較解析および系統発生的研究の結果、当該ウイルスはボカウイルス(bocavirus)と遺伝的に関係のある新規パルボウイルスであることを提示する。
40	ウイルス感染(ヘンドラウイルス)	ABC News 2009 August 20	オーストラリア(Queensland中央)の馬廐舎でヘンドラ(Hendra)ウイルスに感染した獣医師が致死性の病気に陽性結果となり、重体である。他の3人の獣医師もこのウイルスに曝露されたが、Queensland当局はこの3名のウイルス感染を疑う理由はないとしている。ヘンドラウイルスがヒトに感染した場合、致死性であり、Cawarral propertyでウイルスに感染した2頭の馬に対応した2人の獣医師は、8月7および8日に死亡し、また、12ヶ月前にはBrisbaneの獣医師がウマからヘンドラウイルスに感染後死亡した。
41	BSE	CFIA 2009 May 15	2009年5月15日、カナダ食品検査局(CFIA)はアルバータ州の80月齢の乳牛1例がBSE(bovine spongiform encephalopathy)であることを確認した。動物の死体のどの部位もヒト食用もしくは動物飼料の流通に混入していない。この動物の生まれた牧場は特定されており、調査中である。感染動物の月齢や場所はカナダで検出されたこれまでの症例と一貫性がある。カナダはOIE(World Organization for Animal Health)によってBSEの制御されたリスク国として認められており、今回の例はカナダ産牛や牛肉の輸出に影響は及ぼさない。
42	黄色ブドウ球菌感染	Epidemiology and Infection 137(5); 700- 708; 2009 May	オランダにおけるブタ農場でヒトと動物におけるMRSA (Methicillin-resistant Staphylococcus aureus)の検出率について比較し、個人および農場レベルでの特徴と関連付けた。調査した半数以上(28/50)の農場はブタもしくは小屋の塵にMRSAを検出し、約1/3以上 (15/50)のヒトはMRSAキャリアーであった。ヒトで検出されたMRSA株はブタと同じspa型で、すべてがpulsed-field gel電気泳動で識別不能の型であった。多変量解析により、ヒトMRSAキャリアーのリスクファクターはブタ小屋での作業および雌ブタおよび肥育ブタの存在が考えられた。MRSA陽性ブタのいる小屋での作業は、ブタとの接触がより濃厚もしくは長時間であるほどMRSA保菌の高いリスクを被る。
43	黄色ブドウ球菌感染	Journal of Clinical Microbiology 47 (12) ; 4138-4140; 2009 December	マレーシアにおけるブタおよびブタ飼育者における ST (sequence type) 9 MRSA (Methicillin-resistant Staphylococcus aureus)の検出率の報告である。ブタおよびブタ飼育者からMRSAのST398配列型は頻繁に検出されるが、30の農場から360頭のブタおよび90名のブタ飼育者を調査した結果、新規ST9 (spa(staphylococcal protein A遺伝子)型 t4358、Staphylococcal cassette chromosome mec V型)のMRSA株が検出され、ブタの1%以上およびブタ飼育者の5.5%に一時的な定着が認められた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
44	レンサ球菌 感染	農林水産省農林水産 技術会議事務局研究 成果 2009; 469; 80- 85 (2009 March 11)	レンサ球菌ゲノム中の外来遺伝子と病原性との関連を解析した報告である。Streptococcus suis (S. suis)株において、新規外来遺伝子 (orf208-sntA) 領域の塩基配列を決定し、非相同組換えによるゲノムへの挿入が考えられた。このような遺伝子挿入はゲノム上で広く起こることから、本菌には病原性と関係のない機能不明の外来遺伝子も数多く定着していると考えられた。また、外来遺伝子を取り込んだメカニズムとして、自然形質転換制御遺伝子の解析を行ったが、遺伝子の機能およびS. suisが自然形質転換する条件は不明である。
45	サルモネラ	Vet Res Commun 33 191-209 2009 DOI 10.1007/s11259-008- 9170-7	米国の乳牛における抗菌薬耐性サルモネラ菌に関する総論であり、サルモネラ菌の生態と抗菌薬耐性、抗菌薬耐性のモニターに使われる方法および米国内でのヒトおよび乳牛集団における抗菌薬耐性サルモネラ菌の発生率を測定した研究について述べている。健康な乳牛から分離したサルモネラ菌における耐性獲得は低い傾向にあるが、疾患のあるヒトと乳牛からのサルモネラ菌には耐性獲得に同様の傾向が示された。
46	サルモネラ	The Pig Site 2009 September 11	2009年7月、英国で8週齢のブタ800頭のうち13頭が、離乳のため屋外で飼育された夜のうちに死亡した。3頭の検死では、サルモネラ症と思われる壊死性盲腸結腸炎が認められ、この部位の細菌培養からSalmonella Tyohimurium (ネズミチフス菌)ファージ型120が分離された。また、肥育豚におけるネズミチフス菌と関連のあるサルモネラ症発症歴のある250のブタブリーダーを調査したことがあるが、この農場は、かつてSalmonella Tyohimurium U288が分離されたサルモネラ症のアウトブレイクを経験していた。
47	ブルセラ症	OIE 2009 August 3	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年6月9日、最初の確定日 2009年6月10日、報告日 2009年8月3日、原因 ブタ流産菌。2009年6月9日にMECKLENBURG-VORPOMMERN Muritz Melzでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。ブタ4463頭に感染の疑いがあり、確定例はブタ22頭、死亡例22頭であった。
48	ブルセラ症	ProMED-mail 20090701.2380	ロシアの4村(5地区)でブルセラ症(Brucellosis)が起こり、ヒツジ、ウシおよびブタで確認された。危険度の高い村では検疫措置が執られている。動物との接触があったと思われる300名が診察を受け、39名がブルセラ症に陽性であり、8名は病院で治療を受けた。
49	ブルセラ症	OIE (2009 August 3, September 29)	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年6月9日、最初の確定日 2009年6月10日、報告日 2009年8月3日、原因 Brucella suis(ブタ流産菌)。2009年9月6日にMECKLENBURG-VORPOMMERNでブタ4463頭に感染の疑いがあり、確定22例、死亡22例、屠殺1184例および食肉処理3257例であった。
50	ブルセラ症	OIE (2009 September 21, October 16, 27)	スイスにおけるブルセラ症:発生日 2009年9月9日、最初の確定日 2009年9月16日、報告日 2009年9月18日(追跡報告は10月16および26日)、原因 Brucella suis(ブタ流産菌)。2009年9月9日にGENEVEでブタ52頭に感染の疑いがあり、確定39例、死亡1例、屠殺38例であった。また、追跡調査の結果、9月16日および10月2日にもアウトブレイクが起こり、それぞれブタ11もしくは4頭に感染の疑いがあり、確定5もしくは4例、屠殺5もしくは4例であった。
51	ブルセラ症	ProMED-mail 20090920.3303	米国テキサス州Tomball出身の76歳男性が2009年初めにブルセラ症と診断された。男性とその息子は野生ブタの狩りをし、1頭を解体したが、ブタの扱いには注意を払い、また常に手袋を着用していた。Huston Chronicle紙は2009年9月17日付けでテキサスの野生ブタの10%はブルセラ属菌に陽性と報告したが、州の東部では更に高い割合とされている。
52	その他(不 純物)	Journal of Clinical Pharmacology; doi: 10.1177/00912700093 55158; 2010 February 10	2007年12月-2008年2月、北米においてヘパリンインフージョンによる有害反応の報告数が基準値より著しく増大し、バクスター社製ヘパリンバイアルすべての回収に至った。解析の結果、混入物はOSCS(oversulfated chondroitin sulfate)であり、また、ヘパリン製品のロットにおける混入物の不均一性および濃度が特定された。OSCSはブタおよびラットで用量依存的に低血圧症を引き起こし、ラットでのこの反応はbradyzide(げっ歯類選択的B2ブラジキニン受容体アンタゴニスト)で消失した。この混入物の無影響量(NOEL)は1mg/kg、ヘパリン最終ロットでの混入レベルは約3%に相当した。また、OSCSはヒト血漿を用いるとカリクレイン(kallikrein)を活性化することが示された。